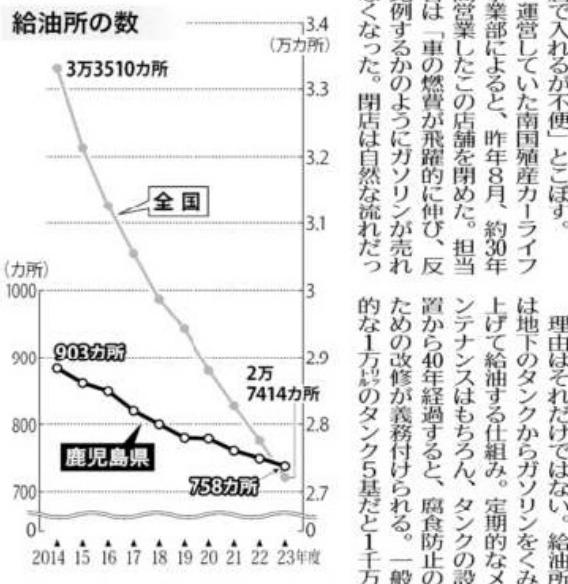


車の燃費向上、 普及 X 普及

給油所の廃業進む



10年で16%減 改修は重荷、高齢化で拍車



昨夏閉店したガソリンスタンド。給油ホースや洗車施設がそのまま残されていた

円以上かかるもあり、改修を前に廃業を選ぶ事業者も多いという。県内で大手とされる同社も、ここ5年間で94店舗のうち10店舗を閉めた。担当者は「近隣の給油所に集約する形で、引き続き地域への役割は果たしていく」と力を込めた。

■廃戸際

資源エネルギー庁によると、24年4月時点の給油所は全国で2万7414カ所

14カ所。ピークだった1995年3月の6万421カ所から毎年減り続ける。この10年間では6096カ所(18・2%)の減。鹿児島県でも903カ所から145カ所(16・1%)減った。

同庁は、給油所が3カ所以下の自治体を「給油所過疎地」と定義しており、全国では392市町村区が該当する。鹿児島県では、三島、十島、宇検、大和の離島4村が給油所過疎地に位置付けられる。ただ、自動車1万台当たりの給油所数は7・3カ所/24年3月末と全国1位の多さだ。

とはいえ「安泰といわけではない」と説明する。

理由はそれだけではない。給油所は地下のタンクからガソリンをくみ上げて給油する仕組み。定期的なメンテナンスはもちろん、タンクの設置から40年経過すると、腐食防止のための改修が義務付けられる。一般的な1万㍑のタンク5基だと1千万

円以上かかるもあり、改修を前に廃業を選ぶ事業者も多いという。組合の高田英司専務理事。東京や大阪の都市部と比べ、鹿児島県内では家族や夫婦で経営する小規模給油所が多い。高田専務理事は「地域のた

め」と気力だけで続いているスタン

ドもある。担い手の高齢化も進み、今後数年間で閉店が相次ぐ可能性もある」と危惧する。

■後継者

「島士に継がせたくない。経済面も体力面も厳しいことは分かっているから」

60年以上、地域から親しまれてきた鹿児島市郊外の給油所。オーナーの男性(2)は父親から引き継ぎ、給油から車の窓拭き、灯油の配達といつた「フルサービス」を信条に妻と二人三脚で切り盛りしてきた。

風向きが変わったのは数年前。近くに価格の安いセルフ式給油所ができ、賛同は遠のいた。住宅もオール電化が進み、灯油の販売量も減少の一途をたどる。ガソリン代の高騰が続く中、少しでも安い方を選ぶ心情も分かる。男性は自身の代での店じまいを決めていた。ただ、「灯油の配達まで手がける店は少ない。需要が減ったとはいっても、車がない世帯は困るかもしれない」と葛藤もある。

離島を持つ鹿児島は、全国でもガソリンが高い県に挙げられる。小規模事業者が食べていくには価格競争しかない。給油所は一種の公的役割も担っているのに、民間任せでいいのか」と高田専務理事。行政を巻き込んだ議論の必要性を感じている。

2025年4月20日付7面

* 習っていない漢字の読みがなや難しい用字用語の解説

廃業(はい・ぎょう) = 商売などをやめること。 恐(おそ)れ	瀬戸際(せ・と・ぎわ) = うまくいか、失敗するかの分かれ目。
閉店(へいてん) 突然(とつ・ぜん) 系列(けい・れつ)	過疎地(か・そ・ち) = 人や施設などがまばらで少ない地域。
飛躍的(ひ・やく・てき) = 物事の発展、進み具合が速いこと。	該当(がい・とう) = ある決まりや条件に当てはまること。
腐食(ふ・しょく) = さびたり、くさったりして形がくずれること。	安泰(あん・たい) = 何事もなく、心配がないこと。
一般的(いつ・ぱん・てき) = 広く行き渡っている様子。物事をまとめて言う様子。 近隣(きん・りん) = 隣(となり)近所	後継者(こう・けい・しゃ) = 後をつぐ人。 窓拭(まど・ふ)き
二人三脚(に・にん・きゃく) = 二人が横に並び、内側の足をしばって走る競技。二人で協力して物事に当たること。	郊外(こう・がい) = 都市の周りの、まだ自然が残っている所。
切(き)り盛(もり) 一途(いつ・と) = 一筋の道。一つの方向。	需要(じゅ・よう) = 商品を求める事。 葛藤(かつ・とう) = 心の中に相反する欲求や考えがあって、その選択に迷う状態。
高騰(こう・とう) = 物の値段が急に上がること。	価格転嫁(か・かく・てん・か) = 原料費や労務費などのコスト上昇分を製品やサービスの価格に上乗せすること。

【問1】見出しの空欄Xに当てはまる言葉を次のア～ウから選びましょう。 (ウ)

ア AD(自動運転)進化 イ ETC(電子料金収受システム)増加 ウ EV(電気自動車)普及

【問2】給油所が暮らしと直結しているのはなぜですか。例を一つあげて答えましょう。

公共交通機関が少なく自家用車が手放せない地方では、給油所が欠かせないから

給油所が冬場に灯油を配達する役割を担っているから

給油所は、災害時のエネルギーを確保する場所にもなるから

～などから一つあげる

【問3】給油所(ガソリンスタンド)の廃業が進む要因について、記事中からは読み取れないものを次のア～オから一つ選びましょう。 (ウ)

ア 車の燃費が飛躍的に伸びてガソリンが売れなくなつたため

イ 給油所の地下タンクのメンテナンスや改修に費用がかかるため

ウ 地球温暖化が進み、ガソリンの使用を控える人が増えたため

エ 給油所の担い手の高齢化が進んでいるため

オ 価格の安いセルフ式給油所ができ、客足が遠のいたため

【問4】資源エネルギー庁は、給油所が3カ所以下の自治体を何と定義していますか。記事中から抜き出して答えましょう。

(給油所過疎地)

【調べてみよう】あなたの住む地域の給油所数の変化について調べてみよう。

